

【プレ企画】Gather を活用した CS-NET サロン開催報告

張 思銘(北海道大学)



2024年3月30日(土)の14時から15時までの1時間、オンラインにてGatherを活用したCS-NETサロンというプレ企画が開催されました。「メタバースで意見交流しませんか?」をテーマに、第1部では参加者が実際にGatherを活用しながら交流し、第2部では意見交換を行いました。本企画では12名の初期キャリア研究者が参加され、Gatherの初体験、今後CS-NETへの導入の可能性などについて、活気に満ちた雰囲気での交流が行われました。

はじめに、日本社会福祉学会研究支援委員会CS-NETサロン企画を担当している保田真希委員(北翔大学准教授)より、本プレ企画の趣旨とGatherの使い方について説明して頂きました。これまでのサロンで初期キャリアのみなさまは、ハイブリッドやZoomで意見交換した後、交流を継続することが難しいという課題がありました。そこで、サロン後の意見交換の場として、Gatherを導入できるかどうかを検証するため、今回のプレ企画が研究委員によって企画されました。

第1部では、参加者がGatherを利用しながら試験的に交流をしました。Gatherは、オンラインで集まり、交流できるバーチャル空間サービスです。GoogleアカウントまたはEmailアドレスでサインインし、アバターを作成して自由に動き回ることができます。他のユーザーと音声、チャット、ビデオで会話できます。本企画では、保田真希委員が事前に噴水広場と椅子ゲーム室を備えたチャットルームを作成しました。1つのルームに無料で参加できる人数は10名なので、12名の参加者は適宜に出入りしながら交流しました。

最初はテーブル席に座り、アバターの操作方法、ビデオ画面の背景設定、Gatherの初体験談などを共有しました。その後は、アバターを自由に移動しながら、通りかかった人とも気軽に会話していました。

第2部では、参加者はZoom会議に戻り、保田真希会員の司会進行のもと、Gatherの利用経験について意見交換が行われました。参加者数が限られていたため、全員が自由に発言する機会が与えられました。全体的に、Gatherは簡単に使えて楽しいという感想が多数でした。Zoom会議とは異なり、Gatherはゲームのようにアバターを使って、自由に移動しながら交流できる点が好評でした。また、アバターを使うことで親しみやすさが増し、サロンで交流した後にいつでも連絡を取り合える場所として使いやすいという意見もありました。更に、Zoomでブレイクアウトルームに分かれるより、Gatherの方が通りすがりの人とも気軽に交流でき、よりフリーディスカッションができると感じたようです。その他、仕事とは違う場面で気軽にアクセスしてから、同じルームにはみんなが入っていることで心の支えになり、気分転換ができるという意見もありました。また、Gatherにはホストがいないため、いつでも同じルームに繰り返し入ることができ、仲間と気軽に立ち話ができることが、心の居場所のようになれるという声もありました。今回のプレ企画を通して、今後のサロンへの導入に期待が高まりました。しかし同時に、Gatherを今後のサロンに導入することで、いくつかの課題も浮き彫りになりました。スマートフォンなどではアバターを自由に移動できず、使いにくいといった課題があります。最後に、Gather

には1つのルームに無料で参加できる人数が10人に限定されているため、10人を超える場合の費用負担が課題となります。これらの課題を解決し、より多くの人が快適に利用できる環境を整えることが今後の課題です。

全員による意見交換の後、高良麻子理事（法政大学、研究支援委員会委員長）と姜民護会員（同志社大学）より総括と挨拶をいただき、今後のサロンの企画については、会員の皆様による主体的な参加を促すといった方針で検討することが確認されました。本プレ企画は、参加者数が限られていたにも関わらず、新しいものにチャレンジでき、自由で熱心な議論が活発に行われ、盛会のうちに終了となりました。本プレ企画の開催にあたり、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。